

## 閉会挨拶

公益財団法人日本海事センター理事長の平垣内でございます。

先ずは、本日、お忙しいなかご登壇頂き、長時間にわたり非常に興味深いお話しを頂いた皆様にお礼を申し上げます。ありがとうございました。また、お忙しいなか長時間ご参加、ご視聴頂いた皆様にも御礼申し上げます。ありがとうございました。

さて、本日のお話しにありましたインダストリアルアスリートという言葉やアンケートにありました「仕事のやりがい」より、「ネット環境重視」という結果はもはや我々の世代には理解不能だということを改めて認識させて頂きました。

ご承知のように人材の確保は、海事の分野だけでなく、日本の全産業の課題が抱える大きな問題です。その中で、他の分野との競争のなかでの人材確保に加え、DXや新燃料に対応するための訓練という2つの課題を克服していくということは大変難しい課題です。理想論ではあるかもしれませんが、この2つの課題を2項対立で考えるのではなく、DXや新燃料対応そのものを、人材確保に繋げるということが狭い道かもしれませんが、非常に重要な事だと思えます。

少し宣伝になりますが、当海事センターは今回のようなフォーラムやセミナーの開催、調査事業に加え、もうひとつの事業の柱として、海事関係の団体の事業に助成を行うという事業を行っております。

先程のパネルディスカッションにも言及されておりましたが、海事関係の団体はそれぞれの団体がそれぞれの目的の広報事業を行っております。今般海事局さんの方で、海事人材の確保の検討をされるなかで、船員確保のための広報の全体戦略を立案し、関係団体が連携して総合的な広報を実施していくという事を検討されております。当センターも関係団体とともにご協力させて頂きたいと思っております。また、本日もご参加の日本船主協会さんや内航総連さんと連携し、海事局のご協力も頂きながら、新たな海事人材のリクルートする試みを補助事業のなかで行っております。引き続き海事人材の確保についても、最大限のご協力をして参りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

本日は、「海事産業のデジタル化・グリーン化に向けた海事人材の確保・育成」というテーマで海事局長をはじめ有識者や産業界、海事教育機関のトップの方々に集まっ

ていただき議論できたことは、大変貴重であり、時宜に叶ったものではなかったかと考えています。

少子化が進む我が国において、人材の獲得競争は今後ますます熾烈なものになることが予想されます。

今回のフォーラムを契機として、ぜひとも多くの関係者が連携協力し合う動きがますます大きなものになっていくことを期待しているところです。

限られた時間の中でしたが、今回のフォーラムが海事人材の確保と育成に関する課題や取組、そして今後の展望について、理解や議論が深まる一助になったとすれば幸いです。

本日は、最後までご参加・ご視聴いただき、誠にありがとうございました。